

退任挨拶

前副会長
三 木 彌 一



昨年度まで副会長を拝命しておりました三木でございます。今、この挨拶の場に立って在任中の2年間を振り返りますと、政府が最初の「知的財産推進計画」を策定したのを皮切りに、以降、「職務発明」や「信託業法」の改正など、我が国の知的財産制度に関する重要な法整備が、異例のスピードでなされたと感じております。

一方、知的財産協会の会員の皆様方におかれましても、市場競争に勝ち残るためにも、自らの知的財産をいかに創造し、守り、活用し、事業の利益に結びつけるかという知的財産戦略について、知的財産協会を中心にして色々と活発な議論がなされ、また見直しが行われ、随分前進したのではないかと思います。

私、丁度この時期に、関西経済連合会の知的財産部会長も務めておりましたが、知的財産協会の積極的な活動に何度となく触れる機会がありました。三浦前会長をはじめ、作田前理事長、各理事、委員長、委員の皆様のご多大なご努力、ご尽力により、そのような法律の適正化が図れたものと考えております。本当にご苦労さまでございました。今、この席を借りてお礼を申し上げたいと思います。

ただ、私自身は、このような各種の法整備の動きに合わせて、副会長として会長を補佐しながら、国や関係団体に知的財産協会としての働きかけをしなければならなかったのでありますが、力不足で十分な活動ができなかったことをお詫び申し上げます。三浦前会長に大変申し訳ないと思っております。

いわゆる知的財産が、今後、企業の中でも経営の基本戦略の一つであることは当然であります。日本が「知財立国」を目指すにあたって、さらなる戦略的施策の立案、実行が必要となるものと思います。各種の施策が適正かつ順調に動いていくためには、知的財産協会の「知恵と見識」が必要であることは言うまでもありません。また、その成否は、科学技術政策そのものにも深くかかわっております。新しく会長になられます吉野会長は、総合科学技術会議の議員を務められている方であり、そのような面からもお力を振るっていただけるものと大変期待をしております。

そのためにも、今後とも新しい執行部への一層のご支援、ご協力を、会員の皆様方をお願い申し上げます。この2年間、ご指導、ご鞭撻を賜りました皆様、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。